

「投書レビューをしよう」

秋田 喜俊 教諭

「新聞の投書を読み比べよう」(東京書籍6年)

今年度4回目の研究授業が、6年2組で行われました。授業者が今回の授業で身につけさせたかった資質・能力は、「四つの投書を読み比べ、自分が納得した投書を選び、その理由を説明する力」です。指導案の児童観の記述の中に、『普段の学習の様子からも書くことや自分の意見を発表することに苦手意識を持ち、消極的な姿が見受けられる』とありました。しかし今回の授業では、自分の意見を持ち、積極的にグループで話し合ったり発表したりする姿が見られ、秋田先生が仕組んでいた手立てが生きていたことが分かりました。また、研究の柱の1つでもある「めあて」についても、秋田先生に事後研で説明いただきました。

(もと) 自分が納得できる投書を選び、その理由を伝え合おう。

(疑問形を取り入れて) その投書に納得したのはなぜだろう。その理由を伝え合おう。

(改善後) 他の投書と比較して、その投書に納得したのはなぜだろう。その理由を伝え合おう。

「めあて」が改善すること、「本時で身につけさせたい力」につながっていているのがわかりますね。

校内研第2部で、「めあてづくりの演習」をしましたが、子どもが主体的に学ぼうとする「めあて」を考えていくことは、日々の授業でも大切にしていきたいと思えます。



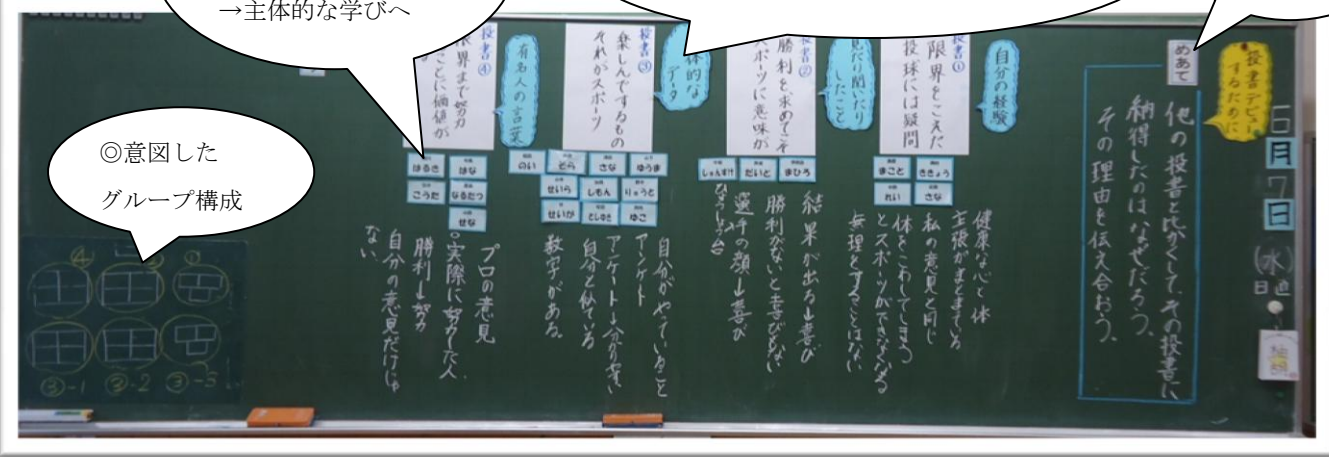
最終板書

◎個名カードを貼り
自分の立場を明確に
→主体的な学びへ

△教師が用意したものよりも子ども
の意見を板書に取り入れる

◎めあての
工夫

◎意図した
グループ構成



研究協議より

○主体的な学び

- ・個名カードを貼ったことにより、自分の立場を明確にして話し合いができた。
- ・予習(自分が納得した投書とその理由をノートに書いてくる)が授業の展開に生かされていた。
(家庭学習のサイクル化)

○対話的な学び

- ・同じ投書を選んだグループ構成・・・安心感 ←→ 必要ないのでは(つけたい力を考えると)
- ・せいが君たちのグループが上手に交流していた。→その姿を評価し全体に広げるとよい。
- ・例えば「②と④の投書は同じ意見なのに、なぜ②を選んだのか」揺さぶりの質問で対話に深まりを。
- ・対話の中でのメモは、メモの必要性や効果を考えて、簡単にポイントを書かせたり赤で加筆させたりする。

○身につけさせたい資質・能力

- ・本時は次時に「投書を書く」につなげるために、説得させるための工夫を読み比べる中で身につけさせたかった。

指導主事より

☆第1次の時に単元の学習の流れを全部出してしまうと、児童は他人事の学習になってしまう。既習の学習を生かして子どもと共に学習の流れを考えることで、子どもがイメージや見通しを持って学習でき主体的な学びにつながる。

☆第2次の学習が第3次(ゴール)へとつながる意識を。第2次で身につけた力を第3次で活用することで深い学びにつながっていく。

☆今日は「納得した理由」という観点で対話をさせたが、それは読み手側から見た観点であり、書き手側なら「納得」ではなく「説得」の理由となるべきである。「身につけさせたい資質・能力」は何なのかしっかりと吟味したうえで、授業の展開の中で中心はどこなのかを授業者は捉えておくことが大切。

国語専科より

☆並行読書を扱わないこのような単元では、新聞の投書等がいつでも見られるように、学習環境を整えることが大切。(学習環境に浸らせる→主体的な姿へ)

5月24日からは、3週連続での研究授業となりました。みなさんお疲れさまでした。国語科の指導領域の違いはありましたが、4年→5年→6年と学年が1つずつ上がり、児童の発達段階も授業を通して見えたのではないかと思います。高学年の授業が続きましたが、次の研究授業はかわいい1年生です。入学してから約3カ月、どんな国語の授業が行われているか楽しみです。次回の研究授業は、6月28日です。この授業が1学期最後の研究授業となります。来週の校内研は、「標準学カテスト」や「全国標準学テ」の自分の学年・クラスを詳しく分析する時間としたいと思います。よろしくお願いします。

お知らせとお願い

☆めあてなどの「学習カード」、授業で活用していただけていますか?校内研で書くブロックで話し合っ
て決めていただいたカードを全ての学級に配布しました。作成にあたっては、宮川先生に大変お世話
になりました。宮川先生ありがとうございました。

☆「学びのノート〇カ条」を配布しました。国語ノートに貼って、いつでも見られるようにしてくださ
い。あと、各クラスに掲示用も作成しています。ご活用ください。